

● 令和3年度「学校推薦型選抜Ⅰ」講評

1 小論文

(1) 方法

本年度の小論文課題では、「少年非行に関する世論調査」を表す1つの図と、少年刑法犯の実態に関する経年推移を表す2つの図を示し、各図から読みとれる傾向を整理した上で、各図の関係性の背景にある社会的な問題を考えられるかを問うた。

この課題は、各図で示されたデータを客観的に読みとることができるか、各図の関係性について考察できるか、それらを踏まえて自分の意見を論理的に表現する文章力を持っているか、といった観点から、本学のアドミSSION・ポリシーに則り、広く社会の課題の探究と解決に、主体的に取り組む姿勢を持っているかを確認することを目的として作成された。

(2) 結果に関する評価

評価のポイントは、①各図を客観的に読みとっているか、②各図の関係性について論理的・説得的に説明しているか、③全体を通して一貫した論理展開となっているか、④各図の関係性から考えられる社会的な問題について指摘できているか、であった。

そのため、各図を客観的に読めていないもの、ある部分だけに着目して全体像を捉えていないもの、図で読みとったものの説明と自分の意見が不整合なもの、設問の意図から外れて自分の主張のみを展開したもの、などは低い評価となった。また、問題文を正しく読めていないもの、段落の使い方等の構成力が不十分なもの、極端に字数が少ないもの、誤字脱字が多いものなど、文章の基本が守られていないものも低い評価となった。

一方、各図を客観的に読みとりその関係性を説明したもの、独自の着眼点であっても各図と論の展開に整合性があるもの、各図の関係性の背景にある社会的な問題について考察しているもの、文章の構成がしっかり考えられているものなどは高い評価となった。

2 個人面接

(1) 方法

新型コロナウイルス感染症対策を十分行い、消毒換気を含めて1人約20分で面接を行った。評価の基準は次の3点であった。

① 表現する力

自己推薦書やアピール・ポイントの内容をわかりやすく表現しているか。

自分の考えを面接員の質問に応じて理解しやすい形で表現しているか。

② 面接の態度

相手の発言を真摯にきく態度であるか。
対話に参加しようとする姿勢であるか。

③ 適性や意欲

入学への真の意欲があるか。
「大学案内」などによってカリキュラムの内容を理解しているか。

(2) 結果に関する講評

上記の3つの基準を踏まえて評価をした。その結果、面接員のコメントは下記のとおりであった。

① 「表現する力」に関するコメント

自分の興味関心などを自分の言葉を使って表現したものや、自分の高校時代において積極的におこなったことについて、具体的なエピソードを示しながら表現したものが高い評価となった。また、本人の将来のビジョンと本学での学びについて一貫性かつ具体性のある説明が出来る生徒には高い評価となったが、そうでない生徒では、低い評価となる場合が多かった。受験生には、自分が本学において行いたい学びや活動を、自分の将来のビジョンと関連づけて具体性のある表現を自分の言葉で話してほしい。

② 「面接の態度」に関するコメント

面接での態度では、緊張による多少ぎこちない返答などは、評価には影響はない。形式的・儀礼的なことよりも、しっかりと面接員の質問を聞いて、質問されたことについて理解した上で、落ち着いて自分の言葉で返答することが重要である。

③ 「適性や意欲」に関するコメント

最も重視する点は、本学へ入学したいという意欲が感じられることであるが、それに見合うだけの本学に関する理解も求められる。特にディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、学びの特色、学びたい科目やゼミ、専攻制や教養課程と専門課程などについての理解は不可欠である。それら知識不足が露呈するようでは、意欲が低いと判断される傾向があった。これらについては、大学案内を暗記するだけの知識となつてはならず、できるだけオープンキャンパスや本学の活動などから得た「生きた情報」を十分理解した上で、自分の将来のビジョンへどのように繋げていくかについて意欲的に表現を行った受験生には高い評価が与えられた。また、将来教員を志望する者は、なぜ教員養成の学部ではなく本学へ志望するのかについて、しっかりした理由を述べてほしい。